# Photo ふなばし

とくしゅう PART1

## いっしょに遊ぼうよ ワンパク王国の動物たち

●市政トピックス ●街角ホットニュース
●アトリエ訪問 ●サークル通信
まちなかの文化財／ふなばしの民話
ペットインタビュー

とくしゅう PART2

## からだに活力充電します ふなばしのスポーツ施設

あまえんぼうのウサギくん（ワンパク王国）

vol.39
広報ふなばし写真版

とくしゅう
PART1

# いっしょに遊ぼうよ

## ワンパク王国の動物たち

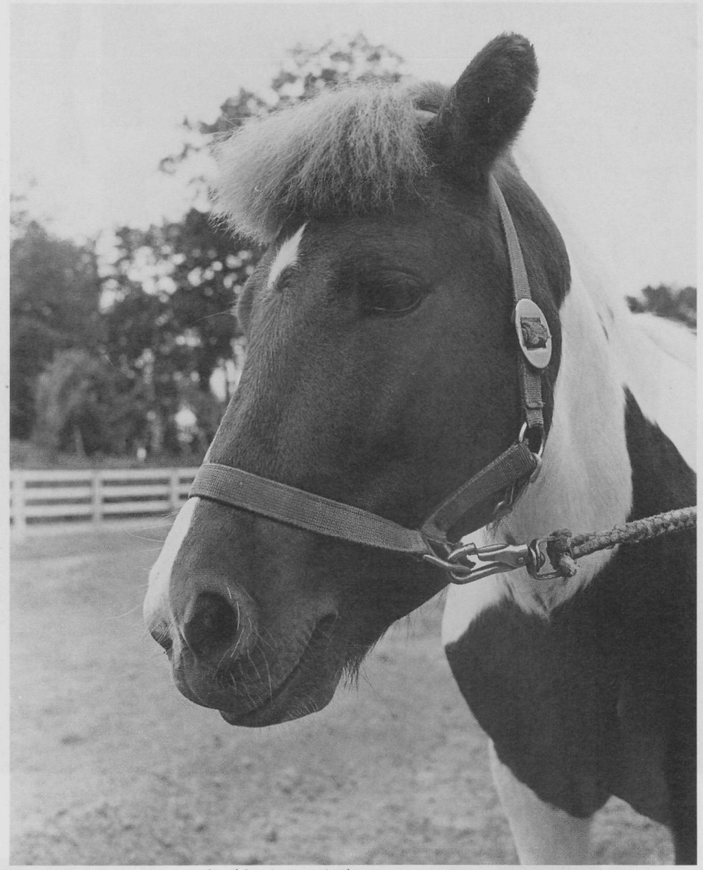
ワンパク王国で一番多いモルモットくん。毎日交替で子供たちの相手をしています



## ワンパク王国 PROFILE

ワンパク王国は、昭和62年11月に開園しました。「広い場所で思い切り遊びたい」「動物と身近に接してみたい」という子供たちの願いに応えて、市制50周年の記念事業のメイン事業として建設されました。11ヘクタールの敷地の中に、ワンパク城、ワンパク広場、ポニーの広場、アルキメデスの泉、そして日本一のポイント数を誇るフィールドアスレチックなど楽しい施設があり、一年を通じて子供たちが楽しめます。中でもポニーやヒツジ、ヤギ、ウサギ、モルモットなどの動物は、普段ふれあう機会の少ない子供たちに大変人気があります。開園以来の入園者数は、平成2年9月30日現在、836,826人となっています。

111ポイントを誇る日本一のフィールド・アスレチック



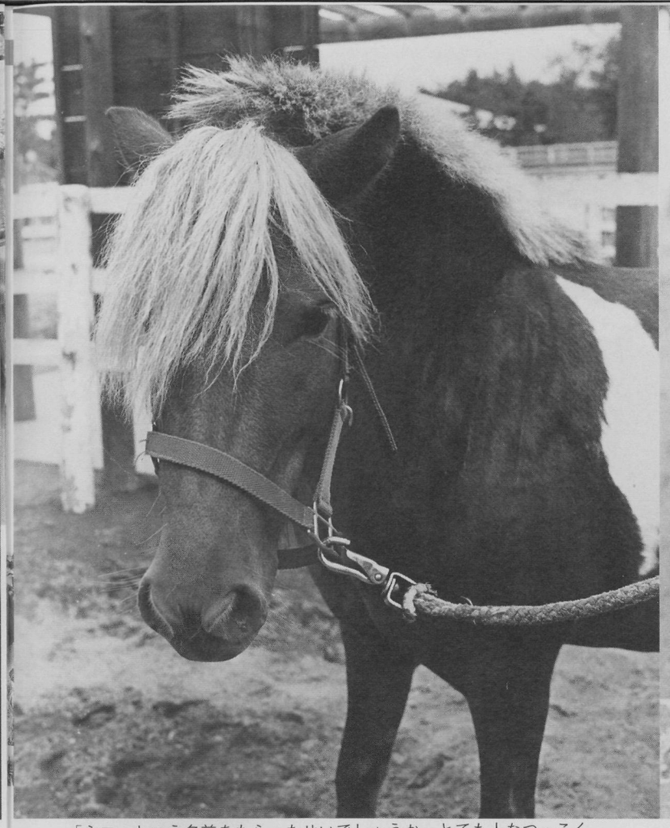
オスのポニー、チェリー（6歳）。とにかくボーっとしている事が多い、のんびり屋。おしゃれにカットされた前髪がお気に入りです

ヒツジにはバリカンのあとが残っていました

子供たちを乗せてはりきっているシロ（メス、10歳）。丈夫で、ケガや病気をしたことがありません

ヒツジさんは意外と臆病なんです

ウサギは耳で体温の調節をしています

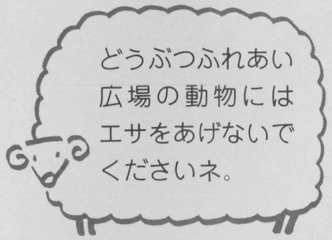


「ネコ」という名前をもらったせいでしょうか。とても人なつっこく、
ポニーのなかで一番安心して子供を乗せられると評判です

メスヤギのアキちゃんは食後のお休み中

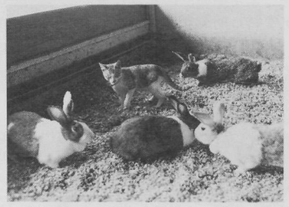
馬房は、いつも清潔に

目ヤニもきれいに洗います



初めてさわる

モルモットにおっかなびっくり



突然の侵入者にちょっとびっく
りウサギさん

ボクの手からエサを食べてくれたよ。ヤギくんは草が大好物
（子どもが食べさせているのは、ワンパク王国で与える干し草です）

朝の調教も日課の一つ

ふれあい広場

で待ってるよ

「ウサギってスベスベしてる
んだね」

ワンパク王国、午前7時30分。ポニーなどの動物がいる動物舎が少し騒がしくなってきた。中では、「お早よう」と一頭一頭に声をかけながら、担当の尾形さんと飯島さんが朝の仕事に取りかかっている。ここには、ポニーの他にヒツジ、ヤギ、ウサギ、モルモットが住んでいる。

ポニーの朝は検温で始まる。「平熱は、37度8分から38度2分くらいですね。体調のバロメーターですから毎日計っています。」朝食は午前8時。メニューは、干し草、えん麦、フスマにカルシウムと塩が入ったもの。ポニーたちが朝食を楽しんでいる間に、部屋の掃除がテキパキと行われる。ポニーのベッドはオガクズ。夜の間に汚れたオガクズやフンが取り除かれ、新しいものが入れられる。食後は、いよいよ朝の調教。一頭ずつ30分かけ、並足、速足、駆足と厳しい訓練が行われる。5頭のヤギとヒツジ3頭は、動物ふれあい広場で朝食。「季節の変わり目は体調をくずしやすいので特に気をつかいます。」と担当の平野さん。体調の変化はまず食欲に表われるが、今日は全員快調のようだ。子供たちに人気のウサギは現在12羽いる。この日は、5羽が子供たちの相手をする。王国で一番多いのはモルモット。小さい子供でも抱くことのできるモルモットも人気が高い。動物ふれあい広場にこうした動物が勢揃いしたころ、ワンパク王国に子供たちの元気な声が聞こえてくる…。

市では、緑の保全や公園の整備など緑の環境整備を重要な施策として事業を進めている。その中でも大きな事業として、豊かな自然の残る市の北部地区を、大きな公園として整備する（仮称）下総神保緑の郷構想がある。ワンパク王国を始め、県民の森、青少年キャンプ場もこの中に含まれている。さらに、現在、ワンパク王国の南側に農業拠点施設が来年春の完成に向け建設中だが、この施設の周辺に、市民の皆さんに農業を楽しみながら理解していただくための園芸センターの建設も計画されている。また、子供美術館もワンパク王国近くに建設されることになっており、将来は、市民が豊かな自然の中でのびのびと遊んだり、農業を体験しながら学ぶことができる広大な公園が誕生する。ワンパク王国は、この中心施設として今後も整備が進められる。

立秋も過ぎ、秋の気配が一日一日濃くなるワンパク王国。ポニーなどの動物を始め、野鳥や昆虫など自然の仲間も皆さんを待っている。一度、足を運んでみてはいかがだろう。

とくしゅう
PART2

# からだに活力充電します

## ふなばしのスポーツ施設

全国でもめずらしい屋根付きの南三咲ゲートボール場（老人福祉課 ☎36—2349）

海老川ジョギングロード。富士見橋を起点に往復3.2キロが完成しています（道路建設課 ☎36—2592）



宮本中学校の運動場（校庭開放）でナイターを楽しむ＊株ダイエーミート東京センター事業部の皆さん

昭和62年6月に完成した武道センター（☎22—0122）

日本一のワンパク王国フィールドアスレチック。111ポイントすべてをクリアすると「日本一フィールドアスレチック大将」の認定証を差し上げています。(ワンパク王国　☎57—6627)

高根木戸近隣公園でテニスを楽しむ高根台テニスクラブの皆さん（公園緑地課　☎36—2552)

気合いに力が入る玄気道の皆さん（武道センター　☎22—0122)

本町４丁目の勤労市民センターにあるトレーニングルーム。ＪＲ船橋駅から大変近いので、お勤め帰りの皆さんでにぎわっています（☎25—2551)

平成４年春オープンを目指して工事が進められている(仮)海浜公園温水プールにはサウナやウォーター・スライダーなど楽しい施設が計画されている

平成５年完成予定の（仮）新総合体育館（習志野台下水処理場跡／習志野台７)

ママさんバスケットＦＭＢＣの皆さん。練習相手が少ないのが悩みです（運動公園体育館／体育施設管理事務所　☎38—4461)

学校の体育館を夜間開放しています（社会体育課　☎36—2913)

市内にある21の公民館も軽スポーツでにぎわっています（新高根公民館　ソシアルダンスサークル「フラミンゴ」の皆さん)

海浜公園のカヌー教室（船橋市カヌー協会　☎31—2243)

運動公園弓道場でけい古に励む船橋学園弓道部の皆さん（体育施設管理事務所　☎38—4461)

さわやかな風、抜けるように青い空。かいた汗もしばらくすると、すーっと引いていく、そんなスポーツにぴったりの秋がきました。

ちょっと体を動かすものから世界の頂点を目指すものまで、人間は様々なスポーツを創り出してきましたが、皆さんは、何かスポーツに親しんでいますか。自分の思い通りにピタリと決まったときの、あのそう快感、たまりませんよね。

どのスポーツが一番面白いかについての議論はひとまずおいて、適度なスポーツが心身の健康に良いことは、誰もが認めるところでしょう。

船橋市では、市民の皆さんが気軽にスポーツに親しんで健康な毎日を送れるよう、また、地域の人々とのふれあいをさらに深めていただけるよう、昭和58年10月10日、「スポーツ健康都市・船橋」を宣言しました。以来、市民の誰もが、いつでもどこでもスポーツを楽しめるよう、スポーツ施設の充実には、特に力を入れています。

運動公園をはじめとする運動広場は、現在、市内13か所にあります。学校の運動場や体育館、それにプール（夏期）の開放は、延べ226施設にものぼりました。

また、買い物や散歩のついでに気軽に体を動かせる「まちかどスポーツ広場」は、14か所あります。この他、ゲートボール場に海浜公園、海老川ジョギングロードや公民館の講堂などなど、市内はいつもスポーツ愛好家の皆さんの活気であふれています。

国際規模の競技大会も開催できる新総合体育館（習志野台下水処理場跡地）や、南部清掃工場の余熱を利用した温水プール（海浜公園）を建設する計画も、着々と進められています。

この他、指導者を育成したり、スポーツ傷害保険制度の充実を図るなど、子供たちからお年寄りまで、市民のみなさんが健康で明るく生きがいのある暮しができるよう、これからも船橋市は、まちづくりの一環としてスポーツの振興を進めていきます。

## まちかどの文化財

### 七面堂（しちめんどう）（藤原町一丁目）

もともと小丘があり、そこに堂を設けたという趣ではない。そのための小丘を築き、その頂きに建立したものではあるまいか——そんな感じで「七面堂」は丘上に建っていた。

四囲の急斜面にはクスやケヤキの大樹が何本か奔放に繁茂し小暗い闇をつくっている一方、一部には近年の植栽だろうが、ツツジやアジサイなどが季節の花々を咲かせている。

何やら神秘的な雰囲気の漂う小世界に足を踏み入れた感じだ。だいたいが「七面堂」という、その名前からして日くあり気である。物の本によれば、法華経の守護神の一人(?)、七面天女を祭るお堂という。天女とはいうがその本体は毒蛇である。かつて日蓮さんの身延説法のとき、聴衆中に熱心に耳傾けて話を聴くうら若い美女（実は毒蛇の化身）が交っていたんだそうだが、日蓮さんのお諭しにより、法華経の行者を守護することを誓ったという。

石段下、講中の建立した大きな石碑——「釋提桓因天」（文化元年）なども何だろうかと人を惑わす。石段を昇り堂の周囲を巡ればすぐ眼下に法典の開墾人・鈴木一族や、「安川塾」の安川家など累代の古い墓石の林立が一望される。

（文責・大木　勲）

石段下にある石碑

緑に囲まれた七面堂

# 市政トピックス

## 備えあれば憂いなし
## 防災総合訓練 開催

お子さんやご主人を助けるのはあなたです

「防災の日」の9月1日、市内3会場で防災総合訓練が行われました。各会場では、町会・自治会の皆さんや小学生による避難訓練、初期消火訓練、各企業の自衛消防隊や自主防災組織の皆さんによる消火訓練、消防局のポンプ車による火災防御訓練などが本番さながらに行われました。特に、消火器や三角バケツによる初期消火訓練に参加した皆さんは、実際に火を消して、その効果をお互いに確認し合うなど実り多い防災訓練になりました。

小栗原小学校の皆さんも元気に訓練に参加

このときの経験がいざというときに役立ちます

高層建築物火災救出訓練

## 船橋市医師会が市消防局に血圧計と心電計を貸与

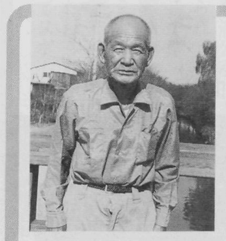
船橋市医師会（山崎芳久会長）が船橋市消防局に血圧計と心電計をそれぞれ13台貸与することになり、8月8日(水)、貸与式が行われました。船橋市医師会と市消防局は今年から「救急・救助隊の患者搬送事例研修会」を合同で開くなど救急医療の充実を図っています。貸与された機材は、市内で稼動している11台の救急車に装備されましたが、消防局ではこれに加えて自動車電話、ファクスを全救急車に設置し、救急隊と受け入れ先の病院との連結を密にしていくことになっています。

山崎芳久船橋市医師会会長（左）から大橋和夫市長に血圧計と心電計がそれぞれ13台貸与された

心電計などの導入により、搬送先の医師が患者の様態を早く正確につかめるようになった

## 市民ひとことインタビュー

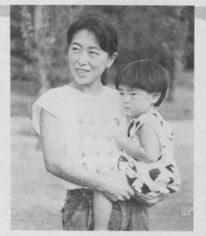
テーマ　秋の夜長の過ごし方


朝晩、海老川へ犬を散歩に連れて行くのが日課です。
石井一三さん（夏見5）

子供とお話ししたり楽しい時を作るようにしています。
宇土知子さん（習志野台1）
達矢くん（3歳）

子供とお風呂に入ったり寝つくまで遊んであげたりしています。
川崎信行さん（小室町）
綾子ちゃん（3歳）

海の夜景を見にドライブする事が多いですね。
田中秀和さん（習志野2）


比較的読みやすい赤川次郎の小説等を読んで過ごします。
上田令子さん（山手3）
一希くん（2歳）



## 駐車問題の解決に向けて
## 船橋市駐車問題懇談会発足

建設中のJR船橋駅北口地下駐車場を視察する皆さん

船橋市駐車問題懇談会（会長・澤井安勇助役）は、道路の渋滞や事故の原因となる違法駐車問題を官民が協力しながら解決を図るため発足しました。メンバーは、市助役のほか警察、商工会議所、自治会関係、大学教授など29人。8月31日に開催された第一回の会合では、市内の交通の状況や駐車の実態などを市の担当課から報告を受けたあと、JR船橋駅周辺や工事中の北口地下駐車場を現地視察しました。

メンバー一人ひとりに委嘱状を手渡す大橋和夫市長

## 市民とともに考える
## 救急医療シンポジウム'90

▲救急医療の充実は市民の願い
◀それぞれの立場から活発な意見が出されました

9月22日(土)、市役所大会議室（11階）で「市民とともに考える救急医療シンポジウム'90」が行われました。2回目を迎えた今回のテーマは「命を救う黄金の30分」。これは、脳卒中や心臓病などの発作では発症から30分以内に手当てが受けられるかどうかで救命率や後遺症に大きな影響があることからこう言われています。当日は、医師会、救急隊、市民代表がパネリストとして参加、それぞれの立場から救急医療について発言しました。会場を埋めた約400人の参加者の皆さんは、身近な問題でもあり真剣にメモをとっていました。

## ゴミ減量キャンペーン
## 『ダイエット船橋'90』で講演会とキャンペーン映画の発表会開催

▶講師の松田美夜子さん
▼身近で切実な問題だけに皆さん真剣に聞き入っていました

ゴミ問題を市民の皆さんとともに考えようと実施しているゴミ減量キャンペーン「ダイエット船橋'90」。この活動の一環として9月18日(火)、勤労市民センターで講演会とキャンペーン映画の発表会が行われました。講演会では、厚生省の「ごみ減量を語る女性の会」の座長を始め、国・県・市レベルの各委員会に参加している松田美夜子さんの体験を通した話に参加した皆さんは真剣に聞き入っていました。

## 9月9日は救急の日
## 市内4か所で救急広場開催

心臓が停止した場合、救命には家族の素早い応急措置が欠かせません。行田団地Aコープで行われた救急広場

9月9日の「救急の日」に合わせて消防局では9月8日と9日、JR船橋駅、ららぽーとなど4会場で「救急広場」を開催しました。各会場では、人形を使った人工呼吸の体験コーナーや三角きんの正しい使用法をはじめ、健康相談コーナーに大勢の市民の皆さんが足をとめ、人工呼吸に挑戦したり、血圧を測ってアドバイスを受けたりしていました。

三角きんの使い方、おぼえておくと便利です（JR船橋駅コンコース）

# 街角ホットニュース

レンズがとらえた わたしのまちのホットな話題

## いつまでもお元気で 市内各地で敬老会

9月15日の敬老の日を記念して、今年も市内各地で町会・自治会などの敬老会が行われました。各会場では、65歳以上の皆さんに市からの敬老記念品が贈られたほか、踊りやカラオケなどそれぞれ楽しい趣向で皆さんの長寿を祝いました。また、市内最高齢（107歳）の山崎きよさんには、大橋和夫市長から記念品が手渡されました。

現在、市内にお住まいの65歳以上の皆さんは3万7,684人。総人口に占める65歳以上の割合は今年の4月1日で7.18パーセントとなり、高齢化社会の仲間入りをしています。

市内最高齢の山崎きよさん（107歳）に記念品を贈る大橋和夫市長

豊寿園では、藤乃会の皆さんによる踊りが披露された

長寿を祝って剣舞が披露されました（下宿自治会館）

心のこもった津田沼フレッシュタウン自治会の敬老会

古和釜小で行われた松が丘町会・自治会連合会の敬老会

今年市内では400か所で敬老会が行われた（豊寿園）

かわいい、かわいいと評判だった子供たちのばか面（葛飾中学校）

## ふなばしの民話

### 坪井の雨降田（あめふりだ）

文・村上昭三

むかし、むかし、坪井村（現・坪井町）の一角にお城がありました。また、お城の近くには、御堂（みどう）がありました。そして、御堂の下には前谷津がはしり、この付近の田圃は胸まで潜る深田でした。

いつの頃からか、この付近の田圃に不思議なことが起りました。田耕い・代掻き・草取り、更に稲刈りをしようと村人が田圃に入ると、今までからりと晴れていた天気が急に変わり、しとしとそれは悲しげな雨が降って来ました。

これには、村人たちも少し不安になり

「あそこの田圃には、何か因縁があるのかのー」

とロ々にいいました。

そこで、隣村の祈とう師にみてもらうことにしました。その祈とう師は

「その昔、あの付近の田圃の近くにお城があっての一。そのお城が敵の襲撃を受け、忽ち火の海となり落城したのじゃ。その時に地蔵菩薩の御像を祀ってあった御堂も火事に遭ったのじゃよ。この混乱で、御像は御堂下の田圃に埋没してしまったのじゃ。今、御像は地上に出たいお心から、村人が田圃に入ると涙を流し、それが雨になるのじゃ」

と重々しくいいました。

これを聞いた村人たちは

「あそこの田圃に、そんなに尊い菩薩様が埋っているのかのー。地上に出してお上げするべえー」

といいました。

そして、村人たちが田圃に入り、隈なく探してみました。しかし、とうとう見付かりませんでした。

その後も、関をみては時々探してみたが、ずーっと後年になって、青石の板碑が出ただけで、御像は出て来ませんでした。

そのため、地蔵菩薩の御像は永い間地上に出してもらえず、村人が田圃に入るとその悲しみの涙が雨となって降り続けました。

それから、村人たちはこの御像を哀れに思い、御堂下の田圃を雨降田とか泣虫田と呼びかつ偲び合って来たということです。

いまも残る雨降田





## 秋の味覚を満喫 恒例のナシ狩り大会開催

もぎたての水々しいナシに舌鼓を打つ参加者の皆さん

9月2日（日）市内三咲にある大野園で、恒例のナシ狩り大会が行われました。これは船橋建和工業会（風間茂会長）の主催により昭和41年から続けられているもので、市内の精神薄弱者育成会や福祉施設の児童からお年寄りまでおよそ500人の皆さんを招待。皆さん船橋の名産なし狩りや福引大会で楽しい初秋の一日をすごしました。

賞品は何かな。大好評だった福引き大会

## 高根東町会 楽しい手作り盆踊り大会！

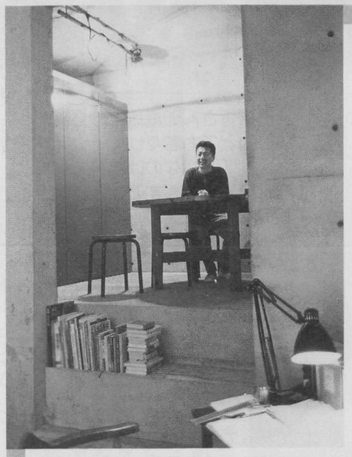
子供からお年寄りまで踊りの輪が広がりました

だんだん手つきもプロ並みに

9月5日・6日、高根東町会で納涼盆踊り大会が開催されました。会場のラドンセンター駐車場には、ワタあめ、焼ソバ、水アメ、金魚すくいなどの屋台が出て、子供たちも大喜び。踊りの輪も大きくふくらんでいました。この盆踊り大会はすべて手作り、出ている屋台もみんな町会の皆さんがやっています。皆さんご苦労様でした。

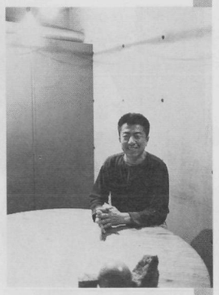
## アトリエ訪問

### イラストレーター・画家 三嶋典東（みしまてんとう）さん（東船橋7丁目）



初めて三嶋さんの作品を見た時の鮮烈な印象は今でも忘れることができない。昭和61年6月、船橋市役所1階美術コーナーで開催された三嶋典東作品展「雨の宇・風の宙」の会場は、通りかかる人々の足をも引き止めてしまうような一種独特な雰囲気につつまれていた。そこには白い紙に、ただペンで描かれた無数の黒い線があった。その黒く、素早く躍動した線は形の無いはずの様々な雨と風の表情を極めて多彩に描き出していたのである。水たまりに落ちる雨。アスファルトに打ちつけられたような雨のしぶき。横なぐりに激しく飛ぶ雨。柔らかに叙情的な雨…。そして風の作品は、さわやかな、時に速い空気の流れが絶妙な線情のコントロールで表出されていた。あの時の作品はどのように出来あがったのだろうか。そんな期待と好奇心を胸に、その仕事場を訪ねた。

東船橋7丁目、宮本中学校のちょうど南側のひっそりとした住宅地に、昨年2月に完成したという住いの一角にアトリエがある。コンクリートを多用した和洋折衷の近代的でユニークなデザイン。一見して極めて個性的なたたずまいはいかにも三嶋さんの感じにピッタリという雰囲気である。一階がご両親と三嶋さん宅の2世帯住宅。その二つの住いを二分する中央の階段を下りた地下室が三嶋さんのアトリエになっていた。打ちっぱなしの厚いコンクリートの壁に囲まれた極めてシンプルな空間である。部屋の中央に、タテ長の大きな窓があり、そこから地上の明るい光があふれんばかりに降り注いでいる。その豊かな光の下に手作りの鉄製の大きな、がっしりとした机があった。この机からあの作品が生れてくるのか。



その簡素なデザインと黒々と渋く光る質感が三嶋さんの作品のイメージとダイレクトに結びついた。

ファックスなどが設置されている隣室の小部屋に置かれた木製の円テーブルのイスに腰かけた三嶋さんが、静かな口調でその創作生活を話し始めた。

「とにかくプロとして『描く力』を身に付けたかったんです。あの頃は…。当時は中山に住んでいて、本町通りのスカイビルに仕事場があって毎日電車でかよっていたんです。そしてその部屋で毎月のようにアトリエ展を開いていたんです。雨や風、光などの作品はその中から生まれてきたんです。とにかくペンの線にこだわっていて、そして何か身近すぎて目に止まらないものを描こうと思って、まず雨ができたんです。観客にとてもリアクションがあって、イケるかナと思いました。」

「今の仕事は本作りにかかわることが主です。小説やエッセーと組んでのイラストレーションを描いたり、ブックデザインの仕事が多いんです。」

傍らには三嶋さんの手掛けた文庫本や雑誌などが無造作に高く積み上げられている。どのデザインやイラストも、ごく日常的な人や物が生き生きとしたペンの線で活躍し、その独特な存在感が誌面の中に際立って見えた。

現在、六本木ストライプハウス美術館で来年4月に開催する個展の準備も進行中。「雨」、「風」そして近作「光」の三部作に新作を加えたものが一同に展示されるという。この新しいアトリエからまたどんな作品が生まれるのか。尽きない想いと期待がかけめぐる。

# みんなのサークル通信広場

## 虹の会
### 小室公民館

文化祭では「おどるポンポコリン」も演奏します

「ポップスからクラシック、長唄まで何にでもチャレンジします。」と会員の皆さん。小室公民館虹の会は、昭和57年7月に発足した大正琴の会。会員は10名、毎月第1、第2、第4火曜日練習しています。この日は、秋の文化祭に向けて「おどるポンポコリン」等を練習。「みんなで助け合って上達していく」のがこの会のモットー。皆さん練習日は休んだことがないとか。男性がいないのが唯一の悩みだそうです。大正琴独特の柔らかな音色一緒に奏でませんか。
（連絡先：清水文子☎57―4708）

おけい古が楽しくて皆さん皆勤賞です

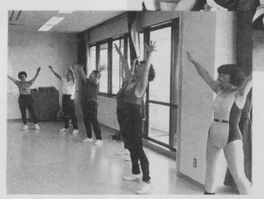
▲おやつの時間が楽しみになりました

「子供に安心して食べられるものを作ってあげたいですね。」と皆さん

## 飯山満公民館
### お菓子とパンの会

公民館がオープンした昭和59年に自主サークルとして発足した飯山満公民館お菓子とパンの会。会員は30名で、毎月第2金曜日に活動しています。「たまごと小麦粉、そしてバターと砂糖さえあれば、手軽にできるのがケーキのいい所ですネ。」とはある会員の声。愛情をこめてゆっくりと、楽しく作るのが、お菓子づくりのこつとか。この日は文化祭で発表するレーズン入りのパウンドケーキにチャレンジ。あなたも気軽に参加してみませんか。
（連絡先：増田美代子　☎72―8724）

若さの秘訣は笑顔です


11月の文化祭に向けて練習中です

## 宮本公民館
### アフタービートの会

会員は皆さん50歳以上の方だそうですが、とても若々しくそうは見えません。「大切なのは笑顔で体操することです。そうすると、身も心も美しくなれるんです。」宮本公民館のオープンをきっかけに結成されたこの会、毎週木曜日に集まりジャズのビートに合わせて体操しています。「とにかくうまい下手は関係ないんです、みんなで楽しく体操して、ストレス解消」これがこの会のモットーだそうです。一人ではなかなか腰を上げられないもの。あなたも仲間に加わってみてはいかがですか？
（連絡先：菅野信子　☎66―6392）

## ペット・インタビュー

マイケル（左）とルビー

### マイケルとルビー
（アメリカンボクサー）

オーナー
野口美智子さん（宮本6）

僕はアメリカンボクサー犬のマイケル。この8月6日で満2歳になったばっかり。先祖はドイツボクサー犬で見ての通り、顔はちょっとごついけど気持ちはとっても優しいんです。毎日海老川のジョギングロードまで散歩してるけど、他のペット君と会っても吠えたことないんだ。そうそう、ビッグニュース。8月の末に一緒に住んでいるルビーに赤ちゃんが7匹も。今から大きくなるのがとっても楽しみです。食事は毎日朝夕2回、ドッグフードに牛肉をミックスしたものだけど、とても気にいっています。おなかの調子が悪い時はおからを食べるとすぐに直るんだ不思議でしょ。もうすっかり秋、そろそろヒーター入れてもらおうかな。

愛らしいルビーの子供たち





## ART

### 革とは一生 つきあってみたいですね

アザミ革工芸
中村芳子さん
（習志野台2）

「革と付き合ってもう13年になります。アザミ革工芸は、染色した革を使うのが特徴なんです。」革の魅力は、年とともに渋さが出てくるところとアイデア次第で何でも作れるところという中村さん。ハンドバッグから人形、スタンドの傘からスリッパ、ベルトと作品は多種多様。「楽しみながら作るのが好きなんです。デパートに行ってハンドバッグのデザインを見てまわることもありますネ。」今年は、ご主人にメッシュのベルトを作って喜ばれたとか。高齢化社会を迎え、何か一つ趣味を持つことの大切さが、最近分ってきたという中村さん。大きな革絵に取り組むこととご主人とレザークラフトを楽しむことが、目標とのことです。

## まい・ふぁっしょん

### みんなと同じものは着たくないですね

江橋貴恵さん
（東中山1）

「みんなと同じものは着たくないですね。」という江橋さん。ボタンの配置と後ろのリボンが気に入っているという渋いオレンジのツーピースに黒の綿ジャージーのTシャツがキリッとコーディネートされて爽やかです。「嫌いな色は特にないし、ブランドにもこだわりません。」ショッピングは市内ではららぽーと、東京にもよく行くそうです。普段は、ゆったりとしたものが好きで、男性用Tシャツとショートパンツが定番とか。アクセントで帽子とサングラスをよく利用するという江橋さん。さらっとした長い髪が素敵な方でした。

## あい・らぶ ふなばし

### 空気がきれいなところが気に入っています

シンシア B.斉藤さん
（本郷町）

「船橋には5月に来たのですが、空気がきれいで静かですね。」シンシアさんは、フィリピンのセブ島出身。ご主人の重行さんと結婚して12年、お子さんは小学校6年と2年の二人です。始めて日本に来た日は、10月にしてはとても肌寒い日で、ガタガタふるえてしまいましたというシンシアさん。冬は大の苦手、四台のストーブはいつもフル回転だそうです。和食には大体慣れましたが、お刺身だけは食べられないとのこと。船橋市の前は、兵庫県の西宮市に約3年住んでいました。「とても便利な所でしたので、比較すると不便さを感じます。」お子さんも学校に慣れて一安心というシンシアさん。「学校を通じていろいろなことを話し合える友達もできました。」とニッコリされた笑顔が優しいママでした。

## ご主人

### 「リッチな気分になれる」とお客様に大変喜ばれています

個人タクシー
岡本政三さん（三咲6）

大の車好きの岡本さんが初めてタクシーのハンドルを握ったのは、昭和27年。当時はフォード製木炭車の円タクで、初乗りは2キロ100円でした。そして、昭和48年に個人タクシーとして独立、何台か国産車を乗り継いだあと長年の夢だったベンツを手にいれました。現在、ベンツのタクシーは県内にたった2台しかないそうです。

「成田空港やゴルフの往復に、利用される固定のお客さまがほとんどです。大事なお客様を乗せますから、車は安全第一。そして、居住性や耐久性を考えると、この車以外には乗れませんね。今のベンツは3台目です。」

週3日は新京成三咲駅前にいるという岡本さん。幸運な人は500円（初乗り）でリッチな気分が味わえるかもしれませんヨ。

## あとがき

■広報課に異動してきてちょうど一年。原稿の書き方や写真の撮り方等まだまだ未熟ですが色々勉強になっています。でもそれ以上に感じているのは、人と接する機会が増え、その一人ひとりから学ぶ事がたくさんあり毎日が充実している事です。今後ともがん張りますのでよろしくお願いします。（彦）

■ペットインタビューの取材でよく飼い主の方にお話を伺う。そして皆さんのペットに対する深い愛情、思いやりをその都度感じる。捨て犬や猫が社会問題化している今日、一人でも多くこのような心ある飼い主になれば、このような問題も解決するのではないかと思うこの頃である。（二）

■特集で市内のスポーツ施設を取材しているとき、83歳で軟式テニスを楽しんでいる市民の方に高根木戸近隣公園で出会いました。ラケットを握って60年以上、高根でも28年間テニスを楽しんでいるそうです。そのかくしゃくとしたプレーに思わず脱帽。やはり、何事も続けることが大事なんですね。（司）

■ワンパク王国の取材はいつも楽しい。無邪気に遊ぶ子供たち、そして彼らを温かく見守るパパやママたち。みんな表情がいい。自然の中で、のびのびと遊ぶ、これが子供の本来の姿なんだと思う。ワンパク王国は、その目的を十分果たしている。今度の休みは、子供を連れてこよう…。（一）

■三嶋典東さんのペンで描くスピードはとにかく速いそうだ。凝縮させたエネルギーを一気に吐き出すといった感じなのだろうか。その線描が作り出す世界は、単に絵の形だけ見ても解らない。線の奥に潜む微妙な心の揺れが無限の趣を持って見る者の心に迫る。市制50周年記念に発行されたオレンジカードのユニークな雨のデザインは今も記憶に新しい。（雄）

9月18日から30日まで勤労市民センターで開催された船橋市写真連盟選抜展。

# 三田中管弦楽部 サントリーホールで演奏会

力強い演奏に、場内から大きな拍手が送られました

楽屋でチューニングに余念が無い管弦楽部の皆さん

8月30日㈭、サントリーホールで行われたジュニア・オーケストラ・コンサートで、三田中学校管弦楽部が見事な演奏を披露しました。このコンサートには、「こども音楽コンクール」の最優秀校が出演することになっており、三田中は昨年に引き続き2年連続の出演となりました。演奏曲は、昨年の同コンクールで演奏した、ワーグナー作曲「ニュルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲。あこがれのサントリーホールとあって、皆さん最初はやや緊張気味でしたが、迫力あるすばらしい演奏で満員の会場を魅了しました。

# スポーツで健康ふなばし こんにちは・・・

## 気功講習会で市民200人が中国古来の健康法に挑戦

気功講習会が、8月16日から27日まで武道センターで開催されました。これは、スポーツ健康都市づくりの一環として行われたもので、昨年に引き続き2回目。今回も友好交流を進めている中国・西安市から、講師として解山岭氏を招き、昼と夜の部合わせて200人が参加しました。参加した皆さんは、先生の体の動きや呼吸法などのアドバイスを真剣に聞くなど熱心に取り組んでいました。

健康を目指して真剣に講習を受ける参加者の皆さん

気功は呼吸が大きなポイントです

PHOTOふなばし　第39号　発行　船橋市　平成2年9月　編集　船橋市広報部広報課　印刷　㈱総合印刷新報社